２０２６年（令和８年）１月３０日　水曜日

デーリー東北　１２面　掲載

木村咲映

青森県勢展望

出町（八戸西高）の5000と1万メートルに期待

渡辺（青森高）山田（出）世界魅了した演技

若手とベテラン実力者そろう

スピード少年男子　フィギュア成年女子　IH成年

氷上競技の第80回国民スポーツ大会「青の煌めきあおもり国スポ」冬季大会スケート、アイスホッケー競技会が、31日から2月8日までの9日間にわたって行われる。スピードスケート（2月5～8日）はYSアリーナ八戸、フィギュアスケート（31日～2月3日）はフラット八戸、ショートトラック（31日、2月1日）は三沢アイスアリーナ、アイスホッケー（2月4～8日）はテクノルアイスパーク八戸、フラット、三沢アリーナの3会場でそれぞれ実施。青森県勢は選手、監督ら計104人が出場し、頂点を目指して全国の強豪としのぎを削る。大会を展望する。

【スピードスケート】

成年男子は、森野大陽、菊池健太（北海道出身）、三井晃太（長野県出身）の青森県競技力向上対策本部に所属する3選手に期待が集まる。1500㍍、5000㍍にエントリーする森野は今季、ワールドカップメンバーに選出され、世界の舞台も経験。ミラノ・コルティナ五輪の代表は逃したが、国内トップ選手としての地位を築いた。

5000㍍に出場する菊池は今季から八戸を拠点とし、昨年12月の全日本選手権では5000㍍で3位に入るなど好調をキープ。1000㍍と1500㍍に挑む三井も全日本では上位に食い込む滑りを見せた。500㍍の石岡良介（青森県競技力向上対策本部）、清川一樹（八戸市庁）も意地を見せられるか。

少年男子は、5000㍍と1万㍍に登場する出町拓人（八戸西高）に注目だ。昨年の全国中学校大会1500㍍の王者。今季は全日本選抜大会特広大会3000㍍で優勝したほか、全国高校選手権では1年生ながら5000㍍で準優勝となるなど、底知れぬ実力を秘めている。

成年女子は、今季の全日本選抜で上位の成績を残した3000㍍の木村咲映（八学大）、1000㍍と1500㍍の下村璃々（八戸西高出、高崎健康福祉大）が表彰台を狙う。500㍍と1000㍍にエントリーする大岩未奈美（ブライフーズ）も入賞へ向けて闘志をみなぎらせる。

少年女子は、3000㍍の木村由菜（八戸東高）が有力。根城中の3選手が、高校生とどこまで渡り合えるか。

【フィギュアスケート】

成年女子は、グランプリファイナルで6位となるなど、今季躍進した渡辺倫果（青森山田高出、三和建装）が出場。トリプルアクセル（3回転半ジャンプ）を軸に、世界を魅了した演技でトップを目指す。

成年男子には、2年ぶりに復帰した木村真人（八工大出、スーパースポーツゼビオ）が出場。32歳のベテランならではの円熟味を増した表現力で、会場を魅了したい。

少年では、男子の堀野伊織（工大一高）、女子の工藤結心（同）が、入賞を逃した全国高校選手権のリベンジに燃える。

【ショートトラック】

成年男子3000㍍リレーに、青森が初出場する。全員がスピードスケート出身の実力者で、昨夏から本格始動。入賞が懸かる31日の予選突破を誓う。同500、1000㍍には木村尚貴（八戸商高出、五日市青果）、毛利信太郎（八戸西高出、サクサ）が挑む。

【アイスホッケー】

成年は昨年5位と、近年表彰台が遠のいているが、メンバーは実力者ぞろい。今季インカレで優勝した中大から高崎泰成（根城中出）、櫻口輝（工大一高出）が参戦するほか、市内実業団で活躍する武田裕大（光星学院職）、坂本渓太（吉田産業）らがチームをけん引。若手とベテランが融合した“ドリームチーム”で、2011年大会以来の地元Vを期す。

順調に勝ち上がれば、準々決勝では昨年王者・東京と対戦か。そこを乗り切れば、悲願の頂点が見えてくる。

少年は、工大一高、八戸工、八学光星高の選抜チームで出場。3年連続で準優勝となっているが、いずれも決勝で王者・北海道に敗戦。“4度目の正直”を果たし、1948年以来の優勝を果たしたい。

シードで準々決勝からの登場となるが、相手は神奈川となる可能性が高い。全国高校選手権で工大一高を破って8強入りを果たした慶応高が主体のチーム。リベンジマッチを制し、決勝の舞台へ向けて弾みをつけられるか。得点力の高い長野佳伸（八戸工高）らFW陣の奮起が鍵を握る。

昨年は、成年と少年を含めた総合優勝を13年ぶりに飾っており、2連覇への期待も高まる。

（小嶋慕文）

活躍が期待される青森成年の吉田裕大（右から2人目）

デーリー東北新聞社提供